

大学入学共通テスト — 傾向と対策

～ 第1回・第2回 試行調査から ～

数研出版 編集部

2018年11月、全国約68,000人の高校生を対象に、大学入学共通テスト(以下、共通テスト)の第2回試行調査が実施されました。本稿では、過去2回実施された試行調査から、その傾向と対策を考えてみます。

1. 共通テストの出題傾向

A. リーディング・テスト

- 1) 大学入試センター試験(以下、センター)にある「発音・アクセント」「適語選択・整序」などがなくなり、多様な文章形式による読解力を問う設問のみで構成。
※センターと比べ、読解量が2割程度増加
- 2) 指示文および場面設定文等もすべて英語。
- 3) 大問ごとに具体的な場面が設定され、状況に応じた読み方(速読や検索読み)が必要。
・必要な情報を読み取る
・概要や要点を押さえる
・複数意見の共通点・相違点を理解する
・物語の流れや書き手の意図を把握する
・パラグラフの展開を読み取る など
- 4) 新たに「正答をすべて選択」させたり、「事実と意見を区別」させたりする出題あり。

B. リスニング・テスト

- 1) コミュニケーションを想定した明確な場面・目的・状況設定を重視。
- 2) 第2回試行調査での読み上げ回数は2回読み(大問1～3)と1回読み(大問4～6)が混在。
※センターは全問2回読み
- 3) 音声は、アメリカ英語以外にイギリス英語や非母語話者の英語も加わり、かつ自然な読み上げ。
- 4) 大問4～6は、表やグラフと関連づけながら英文を聞いて理解する設問。
※「1回読み」「自然な読み上げ」のため難
- 5) 制限時間は30分、配点はリーディングと同じ100点。
※センターはリーディング100点、リスニング50点
※上記A・BはいずれもCEFRのA1～B1の範囲で作成

2. 共通テストに向けた対策

①知識・技能の「活用」を意識した学習を！

主に次のような観点から、知識・技能に関しては、その活用までを意識した上で、ひと通りの学習が必要と言える。

- ・文法知識を直接的に問う設問はないが、その知識がないと的確に解答できない出題あり。第2回試行調査のリーディング・テスト第3問A(仮定法過去完了の知識)、リスニング・テスト第1問A、B(完了形の知識)など。
- ・本文・スクリプトと解答選択肢は言い換えの関係にあることから、パラフレーズ等を意識した豊富な語彙・表現の知識が重要。
- ・読解量増への対応として、リーディング・スキル等を活用した情報処理力の育成が効果的。

②思考力・判断力・表現力につながる活動を！

プレゼンテーションやディスカッション、ディベートなどへの取り組みには、その準備段階を含め、次のような機会が含まれる。

- ・さまざまな文章形式の、身近で実際の・実用的な英文素材に触れる機会。
- ・図表やグラフを読み取ったり、資料の概要を的確に聞き取ったり、複数の情報や意見を比較して判断したりする機会。
- ・事実と意見を区別したり、やり取りにおいて適切な応答を考えたりする機会。

したがって、実際のコミュニケーションの場を想定した出題が顕著な共通テストにおいては、ふだんの授業から、英語による言語活動に積極的に取り組み、その結果、思考力・判断力・表現力の育成へとつなげることがことさら有効と考えられる。